報道資料

奈良市
NARA CITY Old History, New Discovery.

日付	令和 8 年 11 月 13 日（金）
担当課	文化振興課　吉川・藤井
電話番号	0742-34-4942

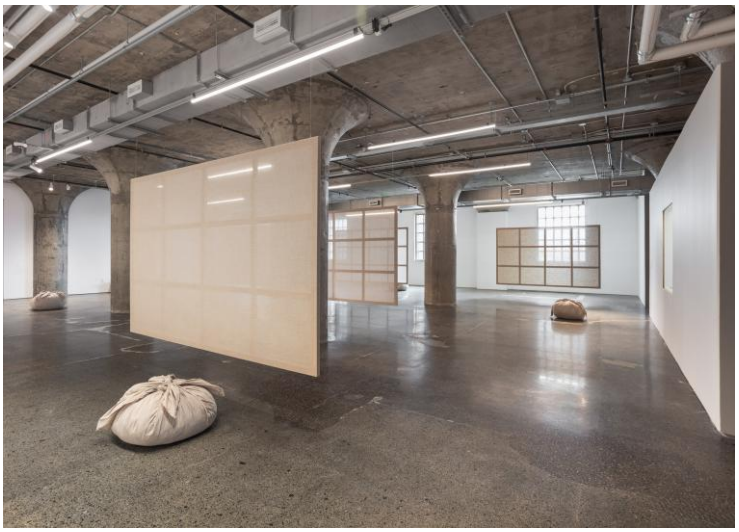
Press release

「東アジア文化都市 2016 奈良市」10 周年。「古都祝奈良（ことほぐなら）の時空旅行」開催・続報！

キムスージャ作品のいよいよ公開！
＆ 作品解説会のお知らせ



奈良市では 2026 年 11 月 7 日（土）～29 日（日）に、“時間が重なり合う都市「奈良」”を舞台に、市民とアーティスト、来場者がともに、過去・現在・未来を巡り体験するアートプロジェクト「古都祝奈良の時空旅行　アートを巡り 時代と出会う」を市内各会場で開催します。**新たな情報を継続して、お届けしていきます。この週末からついに 3 会場すべてが公開となります。**



"Kimsooja, To Breathe-Mokum, 2025-2026",
installation view of "Dimensions of a Needle", MOCA Toronto,2026.Courtesy of Axel Vervoordt Gallery, MOCA Toronto and Studio Kimsooja.
Photo by LF Documentation

＜新着情報＞

■キムスージャ「Meta-Painting」11 月 14 日（土）10 時から公開

■展示 3 会場　作家本人による作品解説のお知らせ

■キムスージャ「Meta-Painting」が 11 月 14 日（土）10 時からスタート

古都祝奈良の時空旅行「招へいアーティストによる展示」の 3 作品目が 11 月 14 日（土）午前 10 時から公開になります。国際的にも第一線で活躍されているアーティスト、キムスージャ氏。長く祈りがささげられ、過去には文人・芸術家が集った塔頭（たっちゅう）・観音院で、空間や時間を超える表現を提示します。

展示期間：2026 年 11 月 14 日（土）～23 日（月・祝）午前 10 時～午後 5 時

展示会場：東大寺観音院（奈良市雑司町）

JR 奈良駅・近鉄奈良駅からバス「東大寺大仏殿・春日大社前」下車、徒歩約 15 分



"Kimsooja, To Breathe-Mokum, 2025-2026", installation view of "Dimensions of a Needle", MOCA Toronto,2026.Courtesy of Axel Vervoordt Gallery, MOCA Toronto and Studio Kimsooja.
Photo by LF Documentation

【作家ステートメント】

2016 年の元興寺での展示から 10 年を経て、この 11 月、私は新たなインスタレーションを携えて奈良に戻ります。私はこれまで、奈良の長い歴史や仏教の伝統と、自身の表現活動との間に深い共鳴を感じてきました。東大寺での制作にあたっては、まずその場の空気に耳を傾け、静寂や周囲の気配を感じ取ることから始めたいと考えています。空間に一方的にアイデアを押し付けるのではなく、観察し、出会い、呼応していくプロセスを通じて作品を形作りたいと考えています。今回は日本の歴史で培われた法則に従って作られた観音院の空間で空間や時間を超える深淵を表現したいと考えました。奈良時代は過去の限られた時間ですが、それは後の移ろいゆく長い時間の中に確実に組み込まれています。止まった時間と永続的に動くものの関係性を探りつつ、静かに思索に耽ることのできる空間を創り出したいと願っています。

【プロフィール】

キムスージャ　Kimsooja

現在ソウルを拠点に活動するキムスージャ（1957 年生まれ）は、絵画、布、インスタレーション、パフォーマンス、映像、光、音といった多様な表現形式を用い、媒体や形態の境界を超えて「生きること」と「芸術」の全貌を探求する国際的なコンセプ



Courtesy of Studio Kimsooja. Photo by Sangwoon Jung

チュアル・アーティストです。1980 年代、彼女は絵画の二次元的な構造を考察しつつ新たな表現様式を模索する中で、世界の根源的な秩序である「垂直」と「水平」という二元性を明らかにする一連の「縫う」作品を制作し、芸術的探求の対象を物質的なものから非物質的なものへと広げていきました。こうした非物質的な領域への一貫した追求と、「無為」を美学的な枠組みとして採用する姿勢は、彼女の長年にわたる多様な媒体や手法への取り組みの根底にあり、概念的かつ思索的な美学とヒューマニズムの観点から、芸術と人間性に対する絶え間ない問いかけを推し進める原動力となっています。
彼女は国際的に知られた美術館での数多くの個展をはじめ以下のような場所で空間を使ったインスタレーションを制作しています。トロント現代美術館（カナダ、2026)、和美術館 -HEM（中国、広州、2025)、アムステルダム旧教会（2025)、パリ商業証券取引所（2024)、フンボルト・フォーラム（ドイツ、ベルリン、2024)、シテルネルヌ/フレデリクスバーグ博物館（デンマーク、コペンハーゲン、2023)、サンテティエンヌ・ド・メッツ大聖堂（フランス、メッツ、2022)、ワナス・コンスト（スウェーデン、2020)、ポワティエの個展 （ポワティエ、フランス、2019)、ピーボディ・エセックス美術館（アメリカ、マサチューセッツ、2019)、ヨークシャー彫刻公園および礼拝堂（ヨークシャー、イギリス、2019)、リヒテンシュタイン美術館（リヒテンシュタイン、2017)、ビルバオ・グッゲンハイム美術館（スペイン、ビルバオ、2015)、ポンピドゥー・センター・メス（フランス、メス、2015)、バンクーバー美術館（バンクーバー、カナダ、2013)、ソフィア王妃美術館クリスタル宮殿（スペイン、マドリード、2006)、アテネ国立現代美術館（ギリシア、2005)、デュッセルドルフ美術館（2004)、MAC リヨン（2003)、PAC ミラン（2003)、ウィーン美術館（2002)、ベルン美術館（2001)、MoMA PS1 (2001)。また作家は、南米国際現代美術ビエンナーレ- BienalSUR (アルゼンチン、2021、2023)、Documenta 14 (ドイツ、カッセル、2017)、ヴェネツィア・ビエンナーレ（2013、2007、2005、2001、1999)、光州ビエンナーレ（韓国、光州、2012、2000、1995)、リヨン・ビエンナーレ（フランス、リヨン、2000)、サンパウロ ビエンナーレ（1998)、イスタンブール ビエンナーレ（1997)、マニフェスタ 1 (オランダ、ロッテルダム、1996)など、数多くのビエンナーレやトリエンナーレに参加してきました。また、ロッテルダムのフェニックス移住博物館は近年、彼女の主要作品である『Bottari Truck–Migrateurs』（2007 – 2009）を収蔵しています。

■展示３会場　作家本人による作品解説のお知らせ

11 月 15 日（日）開催の東アジア国際シンポジウム「東アジアをアートでつなぐ」に合わせ、主にメディアの皆様向けに、各会場で作家本人による作品解説を行います。

※北山十八間戸・東大寺観音院については、付近に駐車場が少ないため、できるだけ公共交通機関でお越しください。

●顧剣亨氏「湖は日々変わる Everyday the Lake Changes」

日時：11 月 15 日（日）午前 10 時～11 時

会場：北山十八間戸（奈良市川上町 454）

JR 奈良駅・近鉄奈良駅からバス「今在家」または「東之阪町」下車、徒歩約 5 分

●中﨑透氏「看板屋なかざき」

日時：11 月 15 日（日）午前 11 時～12 時

会場：椿井市場（奈良市椿井町 5）

●キムスージャ氏「Meta-Painting」

日時：11 月 15 日（日）午後 5 時～ 6 時

会場：東大寺観音院（奈良市雑司町）

上記の取材・撮影は事前申込が必要です。
右のフォームから申込をお願いします。

■東アジア国際シンポジウムについて

11 月 15 日（日）は東アジア国際シンポジウム「東アジアをアートでつなぐ」を開催します。**現在、申込期間を延長して受付中。**



来場者には会期中、本会場でしか手に入らない缶バッジをプレゼント。

（会期中３つの缶バッジを配布。黒の缶バッジは本シンポジウムのみで配布しています）

日時：11 月 15 日（日）午後 3 時～4 時半

会場：東大寺金鐘ホール（奈良市水門町 100　東大寺総合文化センター内）

申込：古都祝奈良ホームページよりお申込み

https://kotohogunara.jp/program/interactive2026-2027/7201